

その恵み天地に遍し^{あまね}

「陽を浴びる若葉は、まばゆい生命の饗宴だ。ここで生きる意味を問うてはならぬ。姿見えず、声聞こえねど、その恵み天地に遍し。」

——中村 哲（中村医師のメール報告より、2011年3月30日）

私たちを照らす中村医師の事業と希望

2024年度現地事業報告

PMS（ピース・ジャパン・メディカルサービス）総院長・ペシャワール会会長 村上 優^{ヨシノブ}／PMS支援室

はじめに

二〇二四年度を振り返るときに、「中村哲医師の事業は全て継続し、希望は全て引き継ぐ」という使命を実行しています、とお伝えできることを喜ばしく思います。ご支援いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、誇りと安堵を分かち合ってくださいと幸甚です。

中村医師を失った時は致命的な危機でした。しかし、三五年間にわたる中村の事業そのものが羅針盤となって存在していました。アフガニスタンの医師や技術者をはじめPMSスタッフが全て残り、活動地では農民たちが熟練工として育っていました。日本の支援者は増えることはあっても減ることはありませんでした。人々の出会いと良心のつながりを束ねていたのは、中村の精神だったと信じています。

灌漑事業と農業

灌漑^{かんがい}事業は、現地のPMS技術者と、日本のペシャワール会に設置された技術支援チーム（ボランティア）とPMS支援室によって引き継がれました。その成果として、二〇二二年のバルカシコート堰^{ぜき}の完成があり、その後、中村の希望だったスピナル山麓の中小河川の灌漑事業として、二〇二四年にバラコット用水路が完成し、ナージアン郡での工事につながりました。まだ技術的な試行錯誤を重ねて経験値を積む段階ですが、地形や降雨の状況を検討して、PMS方式灌漑の応用編としての工事が急ピッチで進められています。

中村はアフガニスタンの農業について会報一〇五号（二〇一〇年九月）で次のように述べています。

「アフガン農村は山間部でオアシス的な農



工事現場に集まってきた子どもたち（2024年5月14日）

業が営まれ、基本的に循環型自給自足の共同体であり、農業生産の大前提は灌漑である。（略）『水は生命線だ』とは、アフガン人なら全て、政府・反政府を問わず、知識人から一農民に至るまで、自明の認識がある。日本がこの面で大きく寄与すれば、食料自給率を飛躍的に上げ、必ずや多くの国民の生命を保障し、以ってアフガン社会安定の強力な柱を提供できるものと確信する」

涸れ川のような中小河川からでも取水しての農耕がアフガニスタンの伝統でした。それを壊したのが戦争であり、地球温暖化

による氷河や雪の消失による干ばつでした。戦争のために伝統的なカレーズ（地下水路）は放置され、涸れ川の取水口も洪水で破壊されて荒れ果てています。人々が帰郷し、本来の農村風景が戻ってきた今こそ、比較的低山（四五〇〇m以下）を源流とする中小河川での灌漑と農業の復活は大切です。

豊かな人間関係を垣間見る

二〇二四年十二月、第八次訪問時に、私はスピンガル山脈のホギャニ郡で一八〇〇m弱の高地まで行き、溪谷を見ってきました。断崖絶壁の細い山道を四輪駆動車で登るのですが、それは大変けわしい山道で、足を踏み入れた日本人は我々が初めてでしょう。

五七〇〇mの山を擁していますから、水量は冬にしては豊かで、上流域からも水を取ることができ、右岸・左岸とも水路がいくつもあります。取水口は簡単な石積みで堰を作り、ほぼ自然に近い状態で水を取り込んでいます。洪水がくれば壊れるので、その都度修理が必要ですが、簡単な構造なので住民らの手で修理されています。昔からのジュイーとよばれる小水路がいくつもあり、湧水も多いので、農業に利用する水は豊富のようでした。高山なので上昇気流が起きやすく、護衛のタリバン兵は、以前は

夏場に夕立的な雨も多かったと語っていました。換言すれば高山に降る雪が直接潤しているために、「昔の豊かな農業国」の姿を色濃く残している地域と言えます。

この地域には「過疎」という概念はあてはまりません。乞食は見かけません。粗末な服を着ているので貧しさは伝わってきますが、何らかの糧があり、自立しています。日本の「都市化と過疎」の対極にある、人の在りようです。二、三歳の子どもが時に兄姉に抱かれ、手を引かれ、走っている。時に祖父と手をつないで歩いている。そんな



ジュイーと呼ばれる簡単な構造の小水路
（コット郡、2022年5月30日）

光景が、そこかしこで見られます。中村が「豊かな人間関係の世界」と幾度も表現している光景が目の前にありました。子どもはいつも家族や地域の人々に見守られ、好奇心旺盛で私たちを走って追いかけてきます。山の中のバザールは、どこからこんなに人が出てくるのか、と思うほどに混雑していました。人々が集まれば交易がはじまり、市が立ちます。貧しくとも活気があり、等しく生きているという印象を受けました。

アフガニスタン国内は、四六年間絶えず戦争がありました。二〇二一年夏のタリバン復権の下で戦争は無くなりました。これは危ういバランスの上にある安定かもしれないませんが、農山村部に住む大多数の人々はこの安定を受け入れているようです。

現在、PMSが用水路を拓いたナンガラハル州では食糧難も改善してきています。しかし他の地域に目を向けると、干ばつ被害、食糧難が繰り返され、危機が叫ばれています。農業復活のための水をいかにして得るか。それを模索し実行することが平和につながる道だと思っています。

ハンセン病医療の再開

一九九一年に開設されたダラエヌール診療所は、幾多の経緯はありましたが、今日で

はPMSのただ一カ所の診療所として活動しています。月間五千名を超える患者が受診し、この地域の出産も含めて医療を託されています。かつては十一カ所あった診療所は戦争による治安の悪化、現地事情に合わない画一的な診療所基準の押し付け、干ばつの影響など諸般の事情によって多くを手放しました。中村が心血を注いだハンセン病診療システムは実を失っていたのです。

そして今、中村と共にハンセン病診療を経験した医療者が健在なうちに再開したいという意向は、PMSにもペシャワール会にもあります。二〇二四年一月にはナンガラハル州から東部アフガニスタンでのハンセン病診療の再開ができないかを打診され、我々も施設候補地の調査に入りました。中村が作り上げた診療体制には手が届きませんが、ささやかに、確実に始めることは可能と判断し、二五年予算に計上しました。

ハンセン病はどういう病気でしょうか。中村の文章『辺境で診る 辺境から見る』二〇三年、石風社刊を基に、補足して紹介します。

《ハンセン病はらい菌という細菌によって起こされる感染症である。現在の日本では新規発症はなく過去の病とみられている。

二〇二三年の世界のハンセン病発症件数は、



カプールの診療所でハンセン病患者を診る中村医師（2002年3月頃）

一位がインドの十万七八五一件、二位はブラジルの二万二七七三件、三位はインドネシアの一万四三七六件。アフガニスタンについての正確なデータはない。らい菌は低温部位を好み体表面から蝕んでゆくために、皮膚が侵され、末梢神経マヒからくる障害で四肢を失い、失明を生じることもある。そこで「あのような病気にかかりたくない」という集団的な恐怖心が、古代から強固な偏見を作り上げた。そのために、隔離収容が最近まで疑問視されずに行われてきたのである。奇妙なことは、科学の進歩

が迷信を払拭せず、「感染」という科学的根拠による魔女狩りを生んだことだ。科学的信仰は新たな迷信の素材を提供しただけで、人間の性質は変わらない。病者に対する偏見の、原初的見本をハンセン病に見いだせる」

だからこそ中村は辺鄙な無医村地区にも出かけて早期発見につとめ、投薬治療を提供し、合併症治療や急性期治療の時のみ入院させて治療にあたりました。今回、まず

できることは「早期発見」で、そのための移動チームと拠点の設定を念頭に置いています。

中村が残した言葉

『劇場版 荒野に希望の灯をともし』は人々に深い感銘を与えました。自主上映の動きも想像を超えて広がり、中村への共感を呼んでいます。私も映像の大切さは身をもって体験しましたが、中村の思索は、やはり言葉によって強く刻印されます。『中村哲 思索と行動』を刊行した理由はここにあります。

中村は私たちに「国土をかえりみぬ無責任な主張、華やかな消費生活への憧れ、終わりのない内戦、襲いかかる温暖化による干ばつ――終末的な世相の中で、アフガニスタンは何を啓示するのか」（『思索

表 1 2024 年度診療数及び検査件数

地域名	ナンガラハル州
施設名	ダラエヌール診療所
外来患者総数	56,209
【内訳】 一般	47,872
ハンセン病	0
てんかん	707
結核	47
マラリア	4,604
外傷治療総数	2,979
入院患者総数	—
検査総数	10,365
【内訳】 血液一般	914
尿	1,631
便	2,185
ハンセン病塗抹検査	0
抗酸性桿菌	146
マラリア	4,583
リーシュマニア	468
その他	438

中村は私たちに「国土をかえりみぬ無責任な主張、華やかな消費生活への憧れ、終わりのない内戦、襲いかかる温暖化による干ばつ――終末的な世相の中で、アフガニスタンは何を啓示するのか」（『思索

中村哲 思索と行動

「ペシャワール会報」現地活動報告集成「上・下」1983～2019

中村哲 著

ペシャワール会刊行
A5判上製上巻432頁／下巻456頁
各2970円（税込）

会報に掲載された中村医師の三七年間の報告をまとめました。ぜひご購入下さい（書店・事務局で発売中）。



と行動』下四四三頁）と問いかけました。凶弾に倒れる直前、「この仕事が新たな世界に通ずることを祈り、真っ白に砕け散るクナール河の、はつらつたる清流を胸に、来たる年も力を尽くしたい」（同書、四三五頁）と述べた中村は今も私たちと共にあります。中村の事業と希望は私たちを照らし、世代を超えて引き継がれていくでしょう。これまでも変わらぬご支援をお願いする次第です。

二〇二四年度の概要

1. 医療事業

二〇二四年はマラリア（ほぼ三日熱マラリア）と疥癬患者の急増が見られた。隣国からの難民強制帰還によるものと考えられる。ダラエヌール診療所は、上流に郡立の病院が開設されたにも拘わらず、地域で重きをなしている。二〇二四年度の診療内容は表1の通り。

2. 灌漑事業

二〇二四年度の主な工事は以下の通り。

(1) ナージアン事業

モラヘイル湾曲斜め堰・用水路約2kmを完成し、構造物周辺に植樹中。用水路末端

表2 堰の建設及び改修の経過と予定

堰の名称	場所	水路長 (km)	'03~ '10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	
マルワリード	クナール州 ジャリババ	27	堰 造成					沈砂 池 改修	主幹 排水路 建設	取水門 改修	再 ライニング 約1.5km	排水路 シギ分岐	A区 洪水橋周辺の整備 E区 洪水橋拡張	再 ライニング 2km	再 ライニング 3km	取水門増設、コンクリ ート製土砂吐設置			
シェイワ	シェイワ郡 カンレイ村	0.5	堰 造成												堰上流の堆積 土砂除去、堰補修				
カマⅠ	カマ郡・上流域	0.35	堰 造成								堰 改修	堰補修、 対岸護岸 一部補修		堰補修、 対岸護岸 一部補修	堰補修		堰補修		
カマⅡ	カマ郡・下流域	1.05		堰 造成						堰 改修				堰補修、 対岸護岸 一部補修	堰補修		堰補修		
カシマバード	ベスード郡 カシマバード村	0.25			堰 造成								堰補修		堰上流の 堆積土砂除	河道 整備	堰改修		
タブー	ベスード郡タブー	0.7			堰造成		廃止、ミラーン堰に統合												
カシコート	シェイワ郡 カシコート村	2.5				堰 造成					護岸 一部補修	護岸 一部補修	護岸 一部補修		護岸 一部補修	護岸 一部補修	護岸 一部補修		
ミラーン	ベスード郡 ミラーン村	0.3					堰 造成					護岸 一部補修		堰補修	堰上流の 堆積土砂除	護岸 一部補修	堰補修		
シギ	シェイワ郡シギ村	0.35					堰造成								河道整備				
マルワリードⅡ (カチャラ)	シェイワ郡 カチャラ村	5.5							堰 造成	全域 送水	排水路網と植樹、 護岸造成			堰補修		護岸 一部補修	堰補修、 河道整備		
バル カシコート	シェイワ郡 バルカシコート村	0.3										既存堰 改修	測量	堰造成	用水路、 沈砂池造成				
バラコット	コット郡バラコット村	5													測量、着工	堰造成			
タンギトーク チー	ベスード郡 タンギトークチー村		河道 整備													用水路補修			
モラヘイル	ナージアン郡 モラヘイル村	2.17															測量、 着工		
FAO 共同事業									ミラーン 訓練所建設		PMS方式 訓練	訓練・候補 地調査	候補地 調査	候補地 調査	候補地 調査				
JICA 共同事業			カマ堰・カシマバード 堰・ベスード護岸				カシコート堰		ミラーン堰		カチャラ堰		共同調査・ガイドライン作成						

※2019年度からのマルワリード堰改修計画は工期を2024年12月まで延長。
※シギ、シェイワ堰については河道移動を観察、将来必要ならマルワリード堰流域に統合。
※カチャラ堰(マルワリードⅡ)は2016年10月から2018年9月までJICA共同事業。2018年10月からペシャワール会単独資金による事業。
※ナンガラハル州政府から要請があり、タンギトークチー用水路の補修工事を行った。

に容量五万³mと容量二千五百³mの貯水池二カ所が完成、余水や洪水、雨水を貯水し、有効利用が開始された。小貯水池は水の利用が少ない夜間にカレーズからの水を貯水し、昼間に灌漑水として利用されている。

(2)維持・管理(保全)事業

二四年度は下記の補修・改修工事が行われた。

- ・ミラーン堰背面の補強工事とミラーン堰対岸の砂州の開削による河道の変更及び護岸堤の補強工事(二二年の夏にミラーン堰周辺の河道が変わり、堰の背面と護岸堤が新河道により著しく洗掘されたため)。

- ・カマⅠ堰本体の補強工事―二〇二四年三月より上昇したクナール河水位は八ヵ月程高止まりしていたため、カマⅠ堰体は大幅な補修工事が必要であった。
- ・カマⅠ、Ⅱ堰のコンクリート製土砂吐き下流の護床工、カマⅡ堰は拡大した洪水吐きの復旧工事。
- ・カシマバード堰―堰が接続する砂州の補強工事、堰体に土砂吐き造設。
- ・護岸線の改修工事―ベスード、カシコート

・マルワリードⅡ堰上流で河道の変動があり、堰への流量が減少したため、上流で河道の整備を行なった。

3. 農業事業―ガンベリ農場

二三年度に引き続き、救荒作物のサツマイモの試験栽培と普及作業が行われた。二四年度の試験栽培の結果、八月までの植え付けで収穫できることが判明した。また、種芋の越冬に成功したと言えるが、三分の一ほど腐敗が見られ、更なる工夫が必要。

◎植樹

二〇二四年度の植樹数は二万一九三九本。二〇〇三年以来の総植樹数は一三二万八一二四本となった。植樹の内訳は表3の通り。

中村哲医師の著作等

(価格は税込)

アフガン・緑の大地計画

Peace (Japan) Medical Services & ペシャワール会
B5判並製・256頁・オールカラー 1700円

好評発売中!

わたしは「セロ弾きのゴーシュ」

中村哲が本当に伝えたかったこと 1760円

天、共に在り

1760円

アフガニスタン三十年の闘い

NHK出版 東京都渋谷区宇田川町41-1
☎03(3464)7311

希望の一滴

中村哲、アフガン最期の言葉

A5判192頁オールカラー 1650円

西日本新聞社 福岡市中央区天神1-4-1
☎092(711)5523

アフガニスタンで考える

～国際貢献と憲法九条～

726円

人は愛するに足り、真心は
信ずるに足るアフガンとの約束

中村哲／澤地久枝(聞き手) 1188円

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
☎03(5210)4000

医者、用水路を拓く

1980円

ペシャワールにて

1980円

ダラエ・ヌールへの道

2200円

医は国境を越えて

2200円

医者 井戸を掘る

1980円

辺境で診る 辺境から見る

1980円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24
☎092(714)4838

ほんとうのアフガニスタン

1650円 光文社

文京区音羽1-16-6

☎03(5395)8116

医者よ、信念はいらないまず命を救え!

1980円 羊土社

千代田区神田小川町2-5-1 ☎03(5282)1211

アフガニスタンの診療所から

814円 ちくま文庫

台東区蔵前2-5-3

☎03(5687)2680

映像記録DVD

荒野に希望の灯をともし

～医師・中村哲の35年の軌跡～

[2021年発売] 2970円

アフガニスタン [16年発売] 2970円

用水路が運ぶ恵みと平和

アフガニスタン [12年発売] 2750円

干ばつの大地に用水路を拓く

[企画]ペシャワール会[製作]日本電波ニュース社

現地への渡航を再開した二二年十二月から二四年度まで八回の滞在となった。現地職員や地域住民との交流を深め、技術支援チームによるPMSのエンジニアたちとの

4. 現地との交流・その他

表3 植樹本数(2024年度)

種類	場所	'24年4月～ '25年3月	'03年～'25年 3月の累計
ヤナギ	用水路の両側、河川工事	2,350	848,018
クワ	用水路土手	63	23,323
オリーブ	用水路土手、オリーブ園	0	6,115
ユーカリ	砂防林、護岸樹林帯	3,465	182,440
ビエラ	ガンベリ沙漠	480	5,043
ガズ	砂防林	700	140,278
シーシャム	護岸樹林帯	1,340	33,430
ポプラ	ガンベリ沙漠	0	17,756
ハチワキ	モスク、学校、公園	6,220	7,408
果樹	ガンベリ果樹園	3,109	51,819
その他		4,212	12,494
		21,939	1,328,124

技術の共有・指導と充実した一年であった。活動地域の行政との関係も良好である。

二〇二五年度の計画

二〇二四年度の連続である。

灌漑事業

① ナー吉安事業：左記の工事を予定。

・ トールナウの谷あいの砂防堤造成を続行

・ モラヘイル用水路の沈砂池造設

・ モラヘイル堰上流の既存用水路カチコール、ミアガン、バゴンへ湧水の導水および各用水路の改修工事

② 維持・管理(保全)計画：流域住民への

技術伝達の一環として継続され、住民による維持・管理を目指す。

③ PMS取水方式の普及：用水路建設現場

では、従来通り地域住民を作業員として雇用し、彼らによる維持管理を目指してトレーニングを継続。

④ 新規事業の調査を開始：現在進行中のナー吉安事業が二〇二六年九月に工期を終えるため、候補地の調査を開始。

農業事業

サツマイモの栽培と普及をすすめる。換金作物として栽培中のナツメヤシの収穫後の加工に取り組む。同様に養蜂も継続。

医療事業

ハンセン病診療の再開に向けて準備が開始されているところである。

行政や他医療機関との関係構築を図り、ハンセン病患者の早期治療のため、PMS一同力を尽くしたい。